



「家康は、むし歯に悩んでいたのだろうか？」

高輪会は現在、約600の介護施設で、約1万人の患者様を、訪問診療しています。

医業とは、病を治し、心を癒し、人に愛されること。その為に、人間を学び、社会を学び、健康の「有り難さ」を学ぶのも歯科医の勤です。

戦国の日本を二つにまとめ、260年の平和国家の扉を開いた徳川家康。

彼の偉業の秘訣は健康にありました。

そしていつもメディカル・コンサルタントの曲直瀬道三に医療のあり方を学んでいたのです。

全ての健康は、「歯の学び」から始まる。

高輪会は、訪問診療という新しい歯科医療の仕組みで、社会貢献を目指します。

医療法人社団 **高輪会**
dentalcruise

0120-648-714

医療法人社団 高輪会

東京都港区高輪3-25-33 長田ビル4F

www.takanawakai.or.jp



「食べたい」を叶える 歯科の現場

「かけそばと、マックのポテトが食べたい——」。その希望を叶えるために、たくさんの方が関わり、努力をしている現場があります。

介護施設に入居している、80代のAさん。言語聴覚士としてAさんに初めてお会いしたのは、5月のことでした。当時は口から食事ができず、胃ろうを通じて胃に直接栄養を補給していました。しかしご本人の「食べたい」という強い意思と、ご家族の「何があっても後悔はしないから、食べさせてあげたい」という想いを受けて、施設の職員や看護師、管理栄養士、ケアマネージャー、高輪会の歯科医師、歯科衛生士、言語聴覚士が連携し、半年以上の時間をかけて関わってきました。

まずはスクリーニング検査と食事の様子観察により、食べるための力がどのくらいあるかを評価。その結果、リハビリとしてゼリーやとろみをつけたコーヒーを飲み込むことからスタート。あわせて義歯の調整も行い、週1回の歯科衛生士による口腔ケアで、お口の中を清潔にしたり、簡単な体操を行ったりして食べやすい口内環境をサポート。

胃ろうの時は「どうせ生きていたって仕方ない」と、胃ろうからの流動食も拒否することがあったというAさんでしたが、毎月の多職種での食事観察や情報共有、適切な食事指導を継続した結果、7月頃にはベースト食を食べられるようになるまで回復。明らかに笑顔が生まれ、施設職員さんとも楽しそうに会話されるようになりました。

12月上旬、Aさんの食事評価の最終日。評価の結果、食べやすく工夫（かけそばは薄いとろみをつけて、短めに切って提供、ポテトフライはケチャップを多めにつける）することで、かけそばもポテトフライも食べて良いと判断し、Aさんの希望を無事叶えることができました。「年越しそばに間に合っよかった」と、ご本人もとても喜んでいらつしやいました。今後は歯科衛生士による定期的な口腔ケアを中心に、Aさんを継続的にサポートしていく体制を整えています。

今回の良い結果は、まずAさんの想いに寄り添った施設の職員さんが歯科に声をかけてくださったことに始まり、管理栄養士さんによる食事提供への全面的な協力、ケアマネージャーさんによるご家族との密な連携、歯科では歯科医師が当初義歯作製に拒否のあったAさんに対して諦めずに何度も義歯調整を行い、歯科衛生士はAさんが新しい義歯を使いこなせるよう、スルメを噛む練習などの定期的なリハビリを実施、そしてそこに足並みを揃えながら、言語聴覚士が誤嚥のリスクを減らすために嚥下機能評価を繰り返し行ったこと。これら全てが揃ったからこそ実現したことだと感じています。

これからは高輪会として、より多くの患者様やご家族に寄り添い「お口から食べられる喜び」を実現していただけるよう、日々患者様の一歩近くにいる歯科衛生士と、言語聴覚士としての知識や経験を共有し訓練を行ってまいります。

最後に、「食事（栄養）は胃ろうから、おやつプリンやゼリーだけは口から」。そんなふうにご食べる喜びを叶えている方もいらつしやいます。諦める前にぜひ、専門家に相談してみてくださいね。



岡島 雅美 Masami Okajima

医療法人社団 高輪会 人材企画部 教育研修課 口腔機能支援チーム チーフ言語聴覚士
施設などで摂食嚥下機能評価や訓練を行うとともに、法人内の歯科衛生士に訓練プログラムの助言も行っている。また、施設職員様や地域住人の方向けに、食事介助の方法や介護予防についてなど、摂食嚥下障害に関するセミナー講師に従事。